

国際化学肥料ニュース (2018年3月)

肥料業界の2018年3月動態

- * インド MMTC 社の尿素入札について、3月7日現在約 65 万トンに契約した。そのうちイラン産 45.2 万トン、中東湾岸産 20 万トン。イラン尿素的 FOB 価格 250~255 ドル/トン、中東湾岸尿素的 FOB 価格 260~261 ドル/トンである。これにより、イラン尿素的が在庫分と 4 月生産分がほぼ一掃される。
低価格のイラン尿素的が市場に出回れないため、3~4 月の尿素的市況が上昇するだろうと推測される。

- * 2 月に行ったインド 3 社計 21 万トン (GSFC7 万トン、NFL 社 10 万トン、CIL 社 4 万トン) の DAP 入札がキャンセルされた。その理由は最低応札価格が CFR430 ドル/トン、435~440 ドル/トンに集中して、インド側の希望価格 (CFR420 ドル/トン以下) を 10~15 ドル/トン超え、輸入しても採算取れないためである。

- * 3 月に入っても DAP の高騰が止まらない。その理由は中国産 DAP が国内需要により輸出余力が不足するためである。インドネシア Pusri 社が 3 月初めに行った DAP1.5 万トンの入札は Kujang 社が CFR430 ドル/トンで落札した。また、モロッコ OCP 社は DAP の 3 月 FOB 価格を 435 ドル/トンで表明した。ロシアも南米向けの DAP を CFR430~435 ドル/トンで販売している。

- * 塩化加里市況の堅実さが続いている。東南アジアでは、インドネシア Petrokimia Gresik 社の塩化加里入札は CFR280~300 ドル/トンで落札された。また、タイの Sak Siam 社がベラルーシ BPC から輸入した大粒塩化加里の CFR 価格が 305 ドル/トンである。東南アジアのベトナムとタイは大粒塩化加里の購買量増加により、輸入価格が CFR290~305 ドル/トンまで上昇した。EU では大粒塩化加里の CFR 価格が 270~275 ユーロ/トン、ブラジルでは大粒塩化加里の価格が CFR300 ドル/トンになった。
普通の塩化加里について、東南アジアでは CFR255~280 ドル/トンが次第に受け入れられた模様。マレーシアでは 3 月初めの CFR 価格 250 ドル/トンであるが、5 月納品のものについて、CFR270~275 ドル/トンが要求され、インドネシアも 3~4 月納品分が 250~270 ドル/トンとなる。フィリッピンでは 3 月の CFR 価格がすでに 280 ドル/トンである。ベトナムも 5~6 月納品分の CFR 価格が 280~285 ドル/トンに上昇した。

- * 中国税関の最新データによれば、中国 1 月の肥料輸出量が 15.9%増の 140 万トン、そのうち化学肥料輸出量が 19.2%増の 134 万トンである。輸出増の最大要因は化成肥料輸出関税の引き下げと尿素の品不足と価格高騰で、代替品として硫安と塩安の輸出量が急増した。

一方、1 月の化学費用輸入量が 5.6%増の 112 万トン。その内訳は塩化加里が 2.1%減の 95 万トン、化成肥料が 54.7%増の 11.2 万トン。
- * インドとヨルダン、モロッコとの間に 2018 第 1 四半期のりん鉱石価格が確定した。2017 年第 4 四半期に比べ、ヨルダン産りん鉱石の FOB 価格が 13 ドル上昇し、98~99 ドル/トン、モロッコ産りん鉱石が 3~5 ドル上昇し、78~85 ドル/トン。当該価格は 3 月から 5 月まで有効である。
- * 中国国家统计局および中国窒素肥料工業協会のデータによれば、2017 年中国の尿素生産量が 9.2%減の 5450 万トン、消費量が 8%減の 4886 万トン、輸出量が 49%減の 466 万トン、1~10 月尿素設備稼働率が 55~65%に推移しているが、11 月以降稼働率が 45~50%まで急減した。

また、2017 年窒素肥料業界の売上高総額が 15.4%増の 2277.8 億人民元（約 358.7 億ドル）、業界全体の利益総額 38 億人民元（約 5.98 億ドル）、前年度の総額赤字 98 億人民元（約 15.4 億ドル）から大きく改善した。しかし、中国一定規模以上の窒素化学肥料メーカー 253 社のうち、赤字企業が 96 社、その 96 社の赤字総額 127.2 億人民元（約 20 億ドル）も残っている。
- * 中国国家统计局のデータによれば、2017 年中国りん酸肥料生産量が 0.7%増の 1627.4 万トン（P2O5 換算）。また、加里肥料生産量が 0.3%増の 599.7 万トン（K2O 換算）。一方、中国りん酸と化成肥料工業協会の統計データでは、2017 年中国りん酸肥料生産量が 0.8%減の 1648.4 万トン（P2O5 換算）、そのうちりん安生産量が 0.7%減の 1533 万トン（P2O5 換算）。
- * 3 月中旬になって、DAP の国際価格が東高西低の傾向が表れた。西半球のブラジルとアルゼンチンは CFR 価格が 3 月上旬より 5 ドル安く、420 ドル/トンに下落した。一方、東半球のインドとパキスタンは CFR 価格が 10 ドル高く、420~425 ドル/トンに上昇した。これはモロッコの輸出増と中国の輸出減が原因となっている。
- * モロッコの OCP 社はインド側と第 2 四半期粗りん酸の輸出に関する商談に現在の価格より 100 ドル/トンの値上げを表明した。インド側は強く抵抗するが、OCP 社の値上げ決意が固く、たぶん 50 ドル/トンを上げて、CFR インド価格 728 ドル/トンになる

ではないかと推測される。インドは DAP と化成肥料を作るために、毎年モロッコやチュニジア、ヨルダンから多量の粗りん酸を輸入している。

- * ブラジル国営 petrobras 社は 3 月末から 6 月末まで所有の Laranjeiras と Camacari 尿素工場の稼働を 3 ヶ月止めると発表した。Laranjeiras 工場はセルジペ州にあり、生産能力アンモニア 45.6 万トン、尿素 65.7 万トン、硫安 30.3 万トン。Camacari 工場はバイア州にあり、生産能力 49.5 万トンアンモニアと 49.5 万トン尿素。この 2 工場の稼働停止により約 70~80 万トンの尿素が減産される。

生産停止の原因は赤字続きで、負担しきれないことである。2017 年 Laranjeiras 工場が 6050 万ドルの赤字、Camacari 工場が 1 億 8200 万ドルの赤字を出した。現時点では、ノルウェーの Yara 社、ロシアの Acron 社、中国の中糧グループともう 1 社がこれら工場の買収に手を挙げている。

- * 塩化加里の市況が堅調に保っている。カナダの Canpotex 社は 7 月までの販売量がすべて予約されたと発表した。また、チリの SQM 社は今年の生産予定量がすでに予約され、ロシアの Uralkali 社も生産が需要の増加に追い付かないと発表した。その影響を受け、3 月下旬ブラジル向けの塩化加里大粒品の CFR 価格が 300~305 ドル/トンに値上げられ、4 月に輸出するものは CFR310 ドル/トンに提示された。東南アジアでは標準品の最低 CFR 価格がすでに 270 ドル/トンになり、4~6 月に 20~25 ドル/トンの値上げ可能性も示唆された。

- * インド政府は 2018~2019 年度 (2018 年 4 月~2019 年 3 月) の化学肥料補助金基準を公表した。尿素の補助金が 80 ルピー減の 18900 ルピー (約 290 ドル) /トン、DAP の補助金が 1465 ルピー増の 10402 ルピー (約 160 ドル) /トン、塩化加里の補助金が 765 ルピー減の 6674 ルピー (約 102 ドル) /トン、化成肥料の補助金も 4~10%増である。

- * りん安の市況が弱っている。最大輸入国としてインドの化学肥料補助金が発表されたことにより、DAP 輸入価格(CFR 価格)の天井が 420 ドル/トンであることが確定されたため、DAP の国際価格がそれに合わせて調整することになる。4~5 月 DAP 価格が下がる可能性が非常に高い。

サウジアラビアは CFR420 ドル/トンでインドに 6.5 万トン DAP の輸出が確定され、さらに 10 万トンの追加も協議されている。モロッコの OCP 社も FOB410 ドル/トンでパキスタンに 5 万トンを輸出することになる。

- * ベトナム税関のデータによれば、3月の化学肥料輸入量 35 万トン、1～3月の化学肥料輸入量が 28.6%減の 87.9 万トン。中国産りん安と尿素に対するアンチダンピング関税措置のため、中国からの輸入量が 44.1%減の 25 万トンに留まった。その代わりにマレーシア（尿素）、ノルウェー（化成肥料）、アメリカ（りん安）からの輸入が大幅に増えた。
- * 中国税関の速報によれば、2月に昨年より 56%減の 91 万トン輸出した。そのうち尿素が 90.8%減の 5.1 万トン、DAP52.1%減の 15.5 万トン、MAP58%減の 8.6 万トン、硫酸 28.2%減の 35.6 万トン。また、2月の化学肥料輸入量が 3.4%増の 121 万トン、そのうち塩化加里 7.7%減の 97.2 万トン、化成肥料 84.8%増の 11.3 万トン。今年1月と2月の化学肥料輸入量が輸出量より多いのは 10 数年ぶりである。
- * 4月3日、インド IPL 社が尿素入札を公表した。応札締め切りは4月10日、入札結果発表は4月17日、予定購入数量が未定であるが、5月28日まで船積み出港という条件である。今年インド側の尿素入札はこれで2回目である。

大手各社の営業業績

- * ロシア PhosAgro 社が 2017 年の業績を公表した。化学肥料生産量が 12%増の 830 万トン。その内訳は、りん鉱石採掘量 12%増の 950 万トン、りん安（MAP と DAP）8.5%増の 300 万トン、アンモニア 21%増の 150 万トン、尿素 20%増の 120 万トン、硝安 8.2%増の 49.6 万トン、化成肥料 17%減の 42.3 万トン。肥料以外にりん酸塩類やりん酸系動物飼料添加物も 11%増の 660 万トン。
2017 年 Cherepovets 市に PhosAgro 社の新規アンモニアと尿素工場が完成し、稼働し始めたことが業績の好調に大きく貢献した。
- * サウジアラビア Ma'aden 社が 2017 年の業績を公表した。売上高 28%増の 32.2 億ドル、純利益が前年度 285 万ドルの赤字から 1.9 億ドルの黒字に転換した。主力りん安の生産量が 5%増の 286 万トン、アンモニア生産量が 91%増の 234 万トン。また、2018 年 7 月に生産能力 300 万トンの Wa'ad Al Shamal 工場が完成する予定で、Ma'aden 社のりん安生産能力が 600 万トン／年に達する。
- * チリの SQM 社が 2017 年の業績を公表した。塩化加里と硫酸加里販売量が 12%減の 134 万トン、売上高が 6%減の 3 億 7900 万ドルであるが、リチウムなど加里以外の製品販売が好調で、総売上高が 11.2%増の 21 億 5730 万ドル、粗利益が 35.3%増の 7 億 6250 万ドル、純利益が 54%増の 4 億 2770 万ドル。脱加里肥料の戦略が成功した。2018 年加里肥料の生産量と販売量がさらに削減される計画である。

- * ノルウェーの Yara 社は 2017 年第 4 四半期の業績を公表した。肥料販売量が 3%減であったが、肥料価格の上昇により利益が大幅増えた。EBTDA（利払い前・税引き前・減価償却前利益）が 3 億 2900 万ドル、純利益 1 億 800 万ドル、昨年の 4300 万ドル赤字から黒字に転換した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ノルウェーの Yara 社はヨルダンの APC 社との合弁子会社 KEMAPOO 社に新たに硝酸加里工場を建設することを発表した。現在、KEMAPOO 社の硝酸加里生産能力が 13.5 万トンで、新工場と合わせて年間 35 万トンに引き上げる予定である。Yara 社は KEMAPOO 社の株式 30%を有し、硝酸加里の販売権を 100%持っている。
- * 世界最大の鉱物資源企業 BHP 社が 2017 年下期業績を公表した。カナダ Saskatchewan 州に開発中の Jasen 鉱山の進捗度が 75%を超え、2020 年から稼働することがほぼ確実となる。2018 年当該鉱山の開発に約 2.2 億ドルを投入する計画である。
- * インド政府はヨルダン国営 APC 社と JPMC 社がヨルダンにりん鉱山と塩化加里を開発し、りん酸、DAP 及び化成肥料工場の建設を目的とする合弁事業について合意し、正式契約した。契約によれば、インド側は当該合弁事業が生産するりん酸と肥料を全量購入する権利を有する。

また、上記契約の付属条件として、JPMC 社は 2020 年までの 3 年間計 1000 万トンりん鉱石をインドに輸出し、2018 年のりん鉱石輸出量が 300 万トンとする。APC 社もインド国営 IPL 社（インド加里肥料社）に 2022 年までの 5 年間、毎年 37.5 万トン塩化加里を輸出する。
- * アフリカのタンザニアの新聞報道によれば、タンザニア大統領 J.P.Magufuli 氏は Lindi 州 Kilwa 市に化学肥料工場を建設すると発表した。当該化学肥料工場は地元産の天然ガスを原料にしてアンモニア、尿素を生産し、国内に供給する。総投資額 19.2 億ドル、デンマーク政府が資金の一部を援助する。デンマークとドイツの専門家チームが工場の設計と建設を監督する予定である。

その他

- * 3 月 6 日、ベトナム政府工業貿易省が国内化学肥料産業の保障措置を公表した。2018 年 3 月 7 日からの 2 年間、リストに載せている MAP、DAP および化成肥料に対して約 47.2 ドル/トンの輸入関税を徴収する。ただし、モロッコ、エジプト、トルコ、ヨルダ

ンとメキシコ産の上記肥料には関税を徴収しない。今回の措置は多量輸入される中国産りん安と化成肥料を規制する狙いである。

* ベラルーシの **Belaruskali** 社は所有している加里鉱山の一つに落盤とガス噴出事故が発生し、作業員 2 名が死亡した。鉱山が採掘中止となり、再開が未定である。**Belaruskali** 社は 4 つの加里鉱山を所有し、塩化加里生産能力 1200 万トン／年、世界塩化加里生産能力の約 15% を占める。今回の事故により塩化加里約 200～250 万トンの減産と推測され、塩化加里の国際価格の上昇を招く可能性がある。

* 3 月 5 日、インド政府は中国産五酸化二リン（**P2O5**）に対してアンチダンピングの最終判決を下した。3 月 5 日から 5 年間中国産五酸化二リンの輸入価格が基準価格 1685.42 ドル／トンより安い場合は、その差額をアンチダンピング関税として徴収する。

2017 年 3 月 17 日、インドのりん酸メーカー **Sandhya Dyes & Chemicals Ltd** 社はインド政府に対して、中国産五酸化二リンの不正廉売を提訴した。2013～2016 年 9 月までの輸入価格を調査した結果、不正廉売の事実を確認した。

* 失業者の座込み抗議により 1 月 20 日からりん鉱石の採掘が完全中止となったチュニジア国営 **CPG** 社は 3 月 12 日から再稼働した。3 月 3 日チュニジア政府の内閣会議で **CPG** 社の稼働を妨害する行動に対して司法調査と起訴を決定したため、抗議者が座込みを一時解除すると表明した。**CPG** 社の稼働により、りん酸とりん安生産が停止しているチュニジア国営 **GCT** 社およびインドとチュニジアの合弁会社 **TIFERT** 社が 3 月末または 4 月上旬から生産が再開される見通しとなった。

チュニジア政府のエネルギーと工業省長官は今年のリん安生産量が 650 万トンと計画されているが、達成できるか否かは **CPG** 社のりん鉱石供給量に依存すると述べた。

* ブラジル政府はノルウェーの **Yara** 社が **Vale** 社から **Cubatao** 化学肥料工場の買収を許可した。この買収契約は 2017 年 11 月 20 日に締結され、**Yara** 社が 2.55 億ドルの現金で **Cubatao** 工場を買収する。**Cubatao** 工場の生産能力はアンモニア 20 万トン、硝酸 60 万トン、りん酸肥料 98 万トン、従業員 970 名と季節労働者 930 名を雇用している。

今年 1 月、アメリカの **Mosaic** 社は 11.5 億ドルと 3420 万株式を使って **Vale** 社の化学肥料部門を買収したが、その買収には **Cubatao** 工場を含まない。